

れなかった。なに不自由ないエリートである。わたしの故郷では多くの同級生が集団就職で京阪神へ巣立って行った。「いまも政治には関係なく、汗水たらして働いているはずである」。そう考えた。勉強が好きだった同級生の中には貧しさゆえに大学進

たことがない。つるむことのないなさは、すでに「三池闘争」で知っていた。政治に興味はなかった。それでも、戯曲やシナリオは部屋にこもって書いていた。岡本喜八監督の奥さまから段ボール箱いっぱいインスタントラ

中にも時代にも演劇にも満足していない人がいっぱいいることを知った。その連中が劇団結成にはせ参じてくれたのである。稽古場もなく、あちらこちらと渡り歩いた。だれも苦情をいう奴はいなかった。日々が楽しかった。

回当選するとふんぞり返る政治家もいる。嫌な感じである。「ひゅうらひゃあら」はためくは赤き群れら「倭人伝」海と組織。これらが1970年代のわたしの劇団での作品群である。松浦の若い人はひゅうらひゃあらという言葉をこ存じだろうか。「わが、いきおどもんがひゅうらひゃあらして」と松浦の老人が憤慨した時に使う言葉である。おおどもんはふてぶて

若者と対等であれ

苦勞は若い日にするものである。若い日の苦勞はいつかは実る。「肉弾」はヒットした。独立アロの映画は「絞死刑」「黒部の太陽」「初恋地獄編」などがあつた。安田講堂攻防戦がテレビ中継され、他の大学生や高校生に強いシヨックを与えた。荒れ果てた安田講堂の姿は、全国の学生荒廢の象徴ともいわれた。

学ができず、警察や自衛隊に入つた人もいたのかもしれない。デモ隊と機動隊とのぶつかり合いは激しさを極めた。憎悪の激突である。「あの機動隊の中には警察に入った同級生がいるのかも知れない」。わたしは今日までどんなデモ隊にもくみし

ーメンを差し入れてもらい、1カ月食いつないだ。そして、政治に興味がなくては本は書けないことを知った。劇団三十人会から退団勧告の文書が届いたのがそのころである。

仲間を岡本喜八監督宅へ連れ去っていったこともある。岡本喜八も若造の演劇論に参加して意見を述べていた。老いても若者と同等であろうとする姿勢には感じ入った。創造者はこうでなければいけない。政治家も創造者になるのかもしれない。2、3

葉もある。(松浦市出身)

ノンポリのわたしは過激派といわれたヘルメットにゲバ棒姿の大学生がごとくなく好きにな

待ってましたと劇団「空間演技」を結成した。そして、世の

葉もある。

葉もある。

葉もある。